第10回レジースミスＹＹ親善大会 in 2007大会規定

第10回レジースミスＹＹ親善大会は、2006公認野球規則･競技者必携2006に記載の規定の他、本大会規定により実施する。

チーム編成･服装･用具

1 ベンチ入りできるメンバーは、10名以上20名以内の登録された選手および代表者･監督･コーチ（マネージャー、スコアラーを含む）の6名以内とする。また、審判員2名を帯同すること。（内1名は主審を務められる方とし審判服を着用することが望ましい）
2 選手･監督･コーチは同形、同色、同意匠のユニフォーム（帽子、ストッキング、アンダーシャツを含む）を着用すること。ただし、審判員が認めた場合は除く（この場合でも帽子は着用すること）。
3 背番号は監督30番、コーチ28･29番、主将10番（新4年生交流戦エントリーチームにはこの規定は義務付けない。試合時にはメンバー表背番号欄に丸印を振ること）、選手0～27番（新4年生チーム及び交流戦エントリーチームには背番号の規定は義務付けない）とする。代理者が監督を代行する場合は本部で用意するリボンを着用する。なお、選手等の登録変更は監督会議までとし以降の変更は認めない。
4 ヘルメットは両耳タイプとし7個以上用意すること。金属製バットはJSBBマーク付の公認のものに限る。
5 使用球はつぎのとおりとする。
 * 中学生の部はケンコーボールB球とする。
 * 学童の部はケンコーボールC球とする。
 * ボールは大会本部が1試合2個用意する。ただし、ファールボール等で不足した場合は要因を作ったチームが補充すること。
6 学童の部においては金属スパイク使用を禁止する。
7 コートを着用してグランドに出ることができるのはベースコーチと走者となった投手のみとする。
8 通信器具、映像器具のベンチ内での使用は禁止する。
9 参加チームはバケツとタワシ、清掃布を必ず持参し、ボールの汚れをきれいに落としてから主審に渡すこと。
10 グランド外へ飛んだ試合球は、ボールに近いベンチのチームが取りに行くこと 。但し、大井Gのように出入口が1箇所しか無い場合は出入口に近いチームが取りに行くものとする。

グランド到着･試合準備

1 試合開始予定時間30分以前に本部でメンバー表提出照合（トーナメント戦のみ）等の受付を済ませ、試合グランドに集合する。試合開始時間は早まることがあるので余裕を持って集合することに協力下さい。
2 審判は前後試合チーム各2名の4審制で行う。当該審判員はグランド着任前に本部席に到着報告を行い、試合の再確認を行うよう徹底をお願いします。
 * 担当試合は組合せ表にて確認すること。
 * 主審･塁審の担当は当該審判員4名とグランド責任審判員で協議して決定する。
 * トーナメント戦の決勝戦（及び3位決定戦）の審判は別にこれを本部が指定する。
3 グランド整備及びライン引きは次のとおり行う。
 * 第1試合については、RSYY本部と担当審判がグランド整備、およびライン引き等を行う。（但し可能な限り第1試合の両チームも協力すること）
 * 第2試合以降は、前試合を行った両チームとその担当審判でライン引き、グランド整備を速やかに行ってから次試合の担当審判に引き継ぐこととする。
4 先攻･後攻は主将のジャンケンにより決定する。ベンチは対戦表の若い番号のチームが1塁側、大きいチームが3塁側とする。
5 スコアシートの記録提出については次のとおりとする。
 * 両チームは大会専用スコアシートを主審より受け取り、これに得点経過を記録し、自チームコメントを記載した後本部に提出する。
6 投間･塁間･ベースは次のとおりとする。
 * 中学生の部　　:投間 18.44m 、塁間 27.431m とする。
 * 新6年生以下の部　　:投間 16m 、塁間 23m とする。
 * 新4年生以下の部　　:投間 14m 、塁間 21m とする。
 * ベースは使用するグランドのもの使用する。ストライク･ボールの判定は使用するベースによる。
7 シートノック、ボール廻しは次のとおりとする。
 * シートノック時間は与えない。
 * 投球練習中の守備練習はこれを認める。
 * 投球練習後の内野ボール廻しはこれを認める。ただし、小学生の部については初回のみとする。
 * 試合中のボール廻しは中学部には認めるが、学童の部は認めないこととする。

試合回数及び試合時間

1 試合回数は次のとおりとする。なお、得点差によるコールドゲームは設けない。
 * 中学生の部　　:7回戦
 * 新6年生以下の部　　:7回戦
 * 新4年生以下の部　　:5回戦
2 試合時間は80分(中等部は90分)を越えて新しい回に入らないこととする。ただし、決勝戦･三位決定戦については時間制限を設けず前項の回数を行う。
3 80分を越えた時点で先攻チーム攻撃の場合、その回を最終回とする。

4　80分を越えた時点で後攻チーム攻撃の場合
　* 攻撃チームがリードしてイニングを終了した場合、次の回を最終回とする。
　* 攻撃チームがリードされてイニングを終了した場合、その回を最終回とする。
5　同点の場合、トーナメント戦はノーアウト満塁の継続打順で試合を決する（決勝戦・三位決定戦は2回、他は1回を限度とする。それでも試合が決しない場合は6項の規定による。）。交流試合は、引分けで終了する。

【例】6年生以下の部の場合

	1	2	3	4	5	6	7	計
Aチーム	0	2	0	2	3			
Bチーム	0	3	3	0	?			

5回表Aチームが3点をとり7対6と逆転に成功。5回表終了時プレーボールから75分経過。5回裏攻撃中にプレーボールから80分経過した。この場合次のとおり。
1. Bチームの得点0点の時、7対6でAチームの勝ち。
2. Bチームの得点1点の時、7対7で引き分け。（交流戦の場合）
3. Bチームの得点1点の時、7対7でサドンデスに入る。（トーナメント戦の場合）
4. Bチームの得点2点以上の時は、6回が最終回となるため試合を継続する。

6　試合会場の使用時間の制限等で試合を打ち切ることがある。この場合は打ち切り時のメンバーの抽選で勝敗を決する。抽選は担当審判員、両チーム監督及び本部役員立会の上、次のとおり行う。
抽選方法：○・●の碁石を各9個を入れた抽選袋から最初に主審が勝ちチームとなる碁石を引き、立会者の確認を受けた後、抽選袋に戻す。主将がジャンケンにて抽選の先攻後攻を決定し、先攻チーム打切り時メンバー表1番打者、後攻チーム打切り時メンバー表1番打者の順に両チーム選手が交互に引き、塁審が回収する。すべての選手が抽選を終えたことを確認の上、○・●碁石の個数を発表する。結果は先に主審が引いた色が多い方を勝ちとし、前記立会者全員に確認の上、主審判が結果を発表する。なお、選手が抽選を辞退したときは試合に関係しない本部役員が代わりに抽選を行うものとする。
7　選手の健康障害を防止するため、イニングの途中であっても当該審判員の判断で休憩タイムを設けることがある。このタイム中は試合時間に含めない。（ロスタイム扱い）

試合について
1　ボークに関しては次のとおりとする。
　* ボークはアピールプレーではありません。審判員の判断に従って下さい。
　* 中学生の部についてはルールどおり適用する。
　* 6年生以下の部に関しては、初回は原則指導とし2回目以降は状況を見て判断する。
　* 4年生以下の部は、指導にとどめる。
2　投球練習に関しては次のとおりとする。
　* 初回の投球練習は7球（初球から1分）以内とする。
　* 2回以降の投球練習は4球（初球から1分）以内とする。
　* 途中交代投手の投球練習は7球（初球から1分）以内とする。
　* 投球練習中捕手はマスクを着用する。次項の者も同様とする。
　* 捕手の準備が整わない時は替わりの選手が行うこと。このときの投球数は前記の投球数に含まれる。
3　グランドルールに関しては次のとおりとする。
　* グランドルールは球場ごとに本部で定め、グランド責任審判、当該試合審判員を通じ試合前に各チームに通知する。
　* 打球がノーバウンドで植え込み（川側、道路側）に入った場合は本塁打とする。
　* 打球がワンバウンド以上で植え込み（川側、道路側）に入った場合は2塁打とする。
4　学童の部においては投手の変化球を禁止する。変化球に対してはボールを宣告する。
5　走者が安全に塁に達した後、走者の衝撃で塁のバッグが定位置から移動した時は、その走者に対しいかなるプレーもできない。
6　プレーにおいてまぎわらしい行為は注意する。
7　臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打者前位の者とする。ただし、投手は除く。
8　打者走者及び走者は走塁の際、ベースコーチまたは選手に触れてはならない。
9　ベースコーチは選手に限る。
10　審判員に対する申し出は監督及び当該選手のみとする。
11　メガホンの使用は監督にのみこれを認める。
12　タイム回数の制限に関しては次のとおりとする。
　* 選手交代以外の監督要求によるタイムは1投手に付き3回を限度とし、投手を交代させる。また、1イニング2度目タイムで自動的に投手交代とする。
　* 選手同士の打ち合わせタイムは1試合に付き3回を限度とする。ただし、監督が指示し選手が要求したタイムは双方にカウントされるものとする。
13　悪質な抗議、野次等を発するチームには、当事者、チーム責任者または監督の退場を大会役員、グランド責任審判及び当該審判が命じることができる。

－ 以 上 －